

令和7年度 学力向上のための重点プラン【小学校】 **新宿区立四谷第六小学校**

■ 学校の共通目標

【HP公開用・様式1・令和8年3月10日】

授業作り	重 点	学習規律を校内で統一し、タブレット端末を効果的に活用した授業を展開する。
環境作り		学習に向かいやすい教室環境を整え、個に応じた学習指導をする。

■ 学年の取組について

学 年	学習状況の分析 (各種調査から)	学校が取り組む目標 (日常の授業の様子から)	目標達成のための取組
1 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ひらがな、カタカナ、漢字を確実に身に付け、正しく丁寧に書けるようにする。</li> <li>・語彙を増やす。</li> <li>・話すこと、聞くことの力を付け、自分の知らせたいことをすすんで話したり、相手の話を最後まで聞いたりすることができるようにする。</li> <li>・10までの加減の計算方法を確実に身に付け、正確に計算する。計算の仕方を図やブロックを使って表せるようにする。</li> <li>・計算を早く、正確にできるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文字の学習はデジタルドリルやプリントを活用して反復練習をし、定着を図る。</li> <li>・しりとりやクイズなどのゲームを通してさまざまな言葉に触れられるようにする。</li> <li>・ペアで話をする時間を積極的に取り入れる。話を聞く姿勢等、基本的な話の聞き方の指導を重視する。</li> <li>・デジタルドリルやプリント、計算カード等を活用し、計算練習を繰り返し行い、定着を図る。</li> <li>・ブロックや図、言葉を用いて自分の考えを表す場面を設定し、それを使って発表するようにしていく。</li> <li>・フラッシュカードやくり上がり・くり下がり計算を取り入れた遊びを授業の始めに行い、楽しみながら計算力を身に付けさせる。</li> </ul>
2 学 年		<ul style="list-style-type: none"> <li>・平仮名（拗音などを含む）、カタカナ、漢字を確実に身に付け、正しく丁寧に書けるようにする。</li> <li>・加法、減法の計算の習熟を図り、正確に計算できるようにする。また、かけ算九九は、暗唱できるようにする。</li> <li>・時刻を正確に読むことや計算できるようにし、日常生活でも時刻を意識して行動できるようにする。</li> <li>・自分の考えを話したり、書いたりして人に自分の思いを伝えられるようにする。</li> <li>・データを正確に読み取り、正しい答えを求められるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリル等を活用し、反復練習をさせる。</li> <li>・暗唱テストを行い、確実にかけ算九九を唱えられるようにする。</li> <li>・毎日時刻を読んだり、何分後に何をするのかを伝えたりすることを繰り返し指導していく。</li> <li>・文章を書く前に、文章の構成を考えさせる。構成を考えることを反復練習し相手に伝わりやすい文章を書けるよう定着を図る。</li> <li>・日々学習前に復習問題を行い、定着を図る。</li> </ul>

3 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査は、国語、算数ともに、区の平均を上回っている。特に国語の「応用」分野は区の平均を大きく上回っている。</li> <li>・国語、算数ともに、どの観点や領域でも区の平均を上回っているが、国語の「話すこと・聞くこと」の領域は他の領域に比べると、正答率が低い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を正しい筆順で丁寧に書くことができるようにする。</li> <li>・必要なことを質問しながら聞き、話し手が伝えたいことや自分が聞きたいことの中心を捉え、自分の考えをもつことができる。</li> <li>・書く内容の中心を明確にし、内容のまとまりで段落をつくったり、段落相互の関係に注意したりして、文章の構成を考えることができる。</li> <li>・自らすすんで学習に取り組めるようにする。</li> <li>・かけ算九九を正確に言えるようにする。</li> <li>・算数の活動の中でも、自分の考えを簡潔に説明できるようにする。</li> <li>・算数の学習では、数と計算の領域に課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリルを活用して漢字の練習を行い、小テストなどの反復学習を行う。</li> <li>・質問の種類などの型を示す。また、ペア学習やグループ学習を積極的に取り入れることで、「話すこと・聞くこと」の活動量を増やしていく。</li> <li>・誰に、何の目的で書くのかを明確にし、文章を書かせるようにする。また、友達と読み合う時間を十分に確保し、互いにアドバイスをし合う。</li> <li>・自主学习に取り組み、互いの学習内容を共有し合う時間を設ける。</li> <li>・百ます計算を継続的に行い、結果を記録することで、児童が自らの成長を実感できるようにする。</li> <li>・ペアやグループを作り、式の意味を説明する活動を取り入れる。その際、算数用語を繰り返し指導していく。</li> <li>・デジタルドリルを活用し、個に応じた問題に取り組ませるようにする。</li> </ul>
4 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査は、国語・算数ともに、区平均を上回っている。</li> <li>・国語は、「書くこと」の領域に課題が見られる。</li> <li>・国語、算数ともに学習理解における個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を確実に身に付け、正しく書くことができる。</li> <li>・話のまとまりを意識して、文を書くことができるようにする。</li> <li>・文章の内容を正しく読み取り理解することができるようにする。</li> <li>・計算などの基礎学力の定着を図る。</li> <li>・自ら進んで学習に取り組めるようにする。</li> <li>・定規、コンパス、分度器を用いて、正確に作図できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリルを活用した反復練習やミニテストを活用して定着度を確認する。</li> <li>・書く目的や相手を明確にして文章を書き、書いた後は互いに読み合う時間を確保する。</li> <li>・文章の要点を確認し、内容を理解してから課題に取り組む。</li> <li>・課題設定を重視したり、自主学习の内容を互いに共有し合う時間を設けたりする。</li> <li>・日常から定規等の扱い方を指導し、プロント学習を中心に個に応じた学習に取り組ませる。</li> </ul>
5 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新宿区学力定着度調査では、国語・算数ともに、教科総合正答率は区の平均を上回っている。</li> <li>・国語「話すこと・聞くこと」、「書くこ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・漢字を正しい筆順で丁寧に書くことができるようにする。</li> <li>・既習漢字や句読点を正しく活用することができるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリルを活用して漢字の練習を行い、小テストなどの反復学習を行う。</li> <li>・課題プリントなど書く活動で、既習</li> </ul>

	<p>と」、算数「式と計算」の領域の正答率が区の平均よりも低く課題である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>算数に比べ、国語の学力層の下位分布が多い。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>分数や小数の計算などの基礎学力の定着を図る。</li> <li>作図を正確にできるようにする。</li> <li>文章の内容を正しく読み取り理解することができるようにする。</li> </ul>	<p>漢字や句読点の指導を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>デジタルドリルを活用した反復学習を行い、計算などの基礎学力の定着を図る。</li> <li>教科書の問題だけでなくプリント等も使い、作図を行う回数を増やす。</li> <li>文章の要点を確認し、内容を整理してから課題に取り組む。</li> <li>さんすうい</li> </ul>
6 学 年	<ul style="list-style-type: none"> <li>新宿区学力定着度調査は、国語、算数ともに、区の平均を上回っている。</li> <li>区の平均を基準とした時、国語では「話すこと・聞くこと」、算数では「図形」領域の平均正答率の差が、他の領域と比較して小さいため、課題と捉えられる。</li> <li>国語・算数ともに、学力定着度の個人差が大きい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自ら課題を設定し、その課題の解決のために探究的に学習する力を身に付ける。</li> <li>自らの考えを伝えたり友達の考えを聞いて考えを広げたりすることができる。</li> <li>図形の性質や特徴を正確に捉え、作図したり計算で求めたりしたりすることができる。</li> <li>漢字や四則計算など、基礎的・基本的な学力を全員に身に付ける。</li> <li>データから情報を読み取り、根拠を示しながら自分の考えをまとめ表現する力を身に付ける。</li> <li>文章構成を自分で考え、接続語や句読点の打ち方に気を付けて作文を書く力を身に付ける。</li> <li>算数の学習では、図形の領域に課題が見られる。</li> <li>算数の学習では、証明問題で文章にて自分の考えを表現することに課題が見られる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各教科において探究的な学習ができるような授業計画を立て、実施する。</li> <li>プリント学習やデジタルドリルを活用し、これまでに既習した内容も復習する等、個に応じた学習を進める。</li> <li>ペア、グループ学習を多く設定し、他者と関わることを通して、国語の学習以外でも自らの考えを伝えたり、深めたりする機会を確保する。</li> <li>算数の学習では、図や数直線などを使って立式する練習を積み重ねていく。また、自分なりの言葉で考えを説明できるように伝え合う場や時間を確保する。</li> <li>算数や社会において、表やグラフのデータを読み取る機会を意図的に設け、そこから気が付いたことや考えたことを交流させる。</li> <li>作文指導では推敲する時に着目する視点を与え、自分で書いた文章を見直す習慣を付けさせる。</li> <li>デジタルドリルを活用し、個に応じた問題に取り組みせるようにする。</li> <li>自分の考えを書いたノートを交流し、良い考えを全体で共有する場を設ける。</li> </ul>
特 別 支 援			